

第4学年 学級活動学習指導案

令和元年〇月〇日〇校時
 〇年 〇組 〇名
 指導者 〇〇〇 〇〇〇

【年間指導計画の位置付け 4学年 〇月計画 P. 〇】

1 議題「4年〇組〇〇大会をしよう」(例) 事前、本時、事後の一連の活動を指して議題とする
 内容(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題について

- (1) 児童(生徒)の実態
 - 児童生徒の学級生活における実態や、学級活動における実態などについて記述する
- (2) 議題設定の理由
 - 議題が選定された背景やこの議題を学級全体が取り組むことで、学級や学校生活がどのように向上し、児童生徒一人一人にどのような態度が身に付くことが期待できるかについて、教師の願いや指導観などを記述する。
- (3) 校内研修テーマとの関わり (2年研、中堅研等については個人のテーマとの関わりを記述する)
 - テーマへ本時の授業を通してどのように迫っていくのかを記述する

3 学級活動(1)の評価規準 ※学校で定めた低・中・高学年の評価規準を記述する
 第3学年及び第4学年の評価規準 (例)

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話合いの活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協力して実践している。	学級や学校における人間関係をよりよくし、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとしている。

4 事前の活動(本時に至るまでの活動の流れ)

【計画委員会の活動】 学級会に向けた計画委員会(中学校：企画委員会)の準備の計画を記述する。

日時	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	◎めざす児童(生徒)の姿(観点) 【評価方法】
〇月〇日(△) 昼休み	・提案ポストの議題案を確認し選定する。	・議題選びの視点を念頭に置いて選定することを指導する。	◎よりよい学級生活をつくるために進んで議題の選定をしようとしている。 (主体的に取り組む態度) 【提案カード、観察】
〇月〇日(△) 放課後	・活動計画を作成する。 { 提案理由 めあて 話し合うこと 決まっていること (条件等の確認) ・学級会の進行の仕方を確認する ・学級活動コーナーに掲示する	・実態を踏まえ、日時や場所などの条件を教師が設定する。 ・提案者の思いや願いを学級全体の共同の問題になるように提案理由をしっかりと深めるようにする。	◎計画委員会の役割、〇〇大会に向けた話合いの進行の仕方等を理解している。 (知識・技能) 【活動計画、観察】
〇月〇日(△) 昼休み	・学級会ノートに目を通し書かれた意見を整理する	・出された意見から話合いの見通しがもてるように助言する。 ・必要に応じて短冊に記入する。	

【学級全員の活動】

日時	児童（生徒）の活動	指導上の留意点	◎めざす児童（生徒）の姿（観点）【評価方法】
○月○日（△） 帰りの会	・議題を決定する。	・計画委員会（企画委員会）の提案のもと、学級全員で決定する。	◎学級生活をよりよくするために、進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。 （主体的に取り組む態度） 【観察】
○月○日（△） 帰りの会	・学級会ノートに自分の考えを記入する。	・話し合うことや決まっていることが共通理解できるように必要に応じて助言する。	◎「○○大会」の目的に合った意見を考え、判断し、ノートに書くことができる。 （思考・判断・表現） 【学級会ノート】
○月○日（△） 朝の会	・学級会ノートを受け取る。	・学級会ノートに励ましの言葉等を記入し、話し合いの意欲を高める。	

5 本時の指導と児童生徒の活動

(1) 本時のねらい

学級生活をより楽しく豊かなものにするため、友達の立場や思いを察しながら、みんなのこともっと知ることができる○○大会の内容や大会の計画を考えることができるようにする。

(2) 本時の展開（記入例）

過程	児童（生徒）の活動	指導上の留意点	◎目指す児童生徒の姿（評価の観点）【評価方法】 生徒指導の3つのポイント
導入 ○ 分	1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話し合いのめあての確認 7 教師の話（必要に応じて）	・自分のめあてが言えるように、事前に指導する。 ・提案者の思いや願い、学級全員の問題であることを確認する。 ・日時や場所については、あらかじめ教師の方で決めておく。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <生徒指導の3つのポイント> ○自己存在感 ○共感的人間関係 ○自己決定の場 </div>
展開 ○ 分	8 話し合い (1)話し合うこと① 「○○大会の内容を何にするか」 (2)話し合うこと② 「どんな工夫をするか」 ①出し合う ②くらべ合う ③まとめる（決める） （合意形成） (3)話し合うこと③ 「どんな係が必要か」	・話し合うこと①は「くらべ合う」段階から進められるよう、事前に短冊を背面黒板等に掲示しておき、出されている意見を全員で共通理解できるようにしておく。 ・司会が進行に困ったときは、方向性を示唆する。児童生徒の合意形成を方向付けるような助言はしない。 ・自分の意見に固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いを付けることも必要であることについて助言する。	
終末 ○ 分	9 決まったことの発表 10 話し合いの振り返り 11 先生の話 12 おわりの言葉	・よかった点や課題について自己評価し、友達のよかった点などについても相互評価できるようにする。 ・終末の助言では、合意形成したことへの価値付け、個人や集団への称賛、今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について述べる。	

◆教師の手立ての記入例

次のような指導等の留意点について、具体的に記述する

- 資料提示 □話し合いを深めるための助言 □計画委員への助言 □話し合いの隊形
- 視聴覚機器利用 等

※話し合いを進める際の留意点、予想される対立への対処法、合意形成に向けた意見の整理の仕方等について、計画委員会(企画委員会)で話し合い、記述しておく。

※本時の話し合いは、「何をするか」について話し合う場合と、前もって案を集めておいて「くらべ合う」段階から話し合う場合がある。どの段階から話し合いを始めるのか明確にすること

※よりよい合意形成を図るために、折り合いのつけ方を理解させ、まとめる段階で、折り合いのつけ方を考える活動を取り入れること

【折り合いの付け方】

- 多数意見でまとめていくことが基本
- それぞれの意見を合わせる
- いくつかの意見のよいところを取り入れ新しい意見をつくる
- 優先順位を付けて上位の意見に決める(今回はA, 次回はB)
- 条件を付けて賛成する

※先生の話す内容について具体的に記述する

- 合意形成したことへの価値付けや個人や集団への称賛
- 前回の話し合いと比べての変容についての称賛 ○今後の課題
- 計画委員へのねぎらい ○今後の見通しや実践に向けての意欲付け 等

(3) 板書計画

「思考の可視化・操作化・構造化」の視点で、板書計画を行う。

「みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」 P10~11) ※別紙で大きく示してもよい

6 事後の指導と児童生徒の活動

友達と協力して自分の役割に責任をもって取り組むことができるよう児童生徒の活動や、教師の支援方法について記述する。

日時	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	◎めざす児童(生徒)の姿(観点)【評価方法】
○月○日(△) 帰りの会	・決まったことを学級活動コーナーに掲示する。 ・係が決まっていなければ係の役割分担をする。	・学級会で決まったことを要点をまとめて書くよう計画委員へ助言する。	◎合意形成したことをもとにみんなで協力し、進んで〇〇大会の準備に取り組んでいる。(主体的に取り組む態度) 【観察】
○月○日(△) ～○日(△) 休み時間	・係ごとに準備をする。	・係の活動状況を途中で報告し合いながら活動意欲の継続化を図る。	
○月○日(△) □校時	・〇〇大会 ・〇〇大会終了後、感想を記入する。	・協力したり、工夫したりしている児童を称賛する。	◎「〇〇大会」の目的を考え、めあてを意識しながら友達と協力して実践している。(思考・判断・表現) 【観察・振り返りカード、感想文】

参考資料

- 小学校(中学校)学習指導要領解説 特別活動編
- 言語活動の充実に関する指導事例集 文部科学省(小学校 H22.12、中学校 H23.5)
- みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)
平成30年12月 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- 学級・学校文化を創る特別活動(中学校) 平成28年4月 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- 「問い」が生まれる授業サポートガイド 2019年度版 沖縄県教育委員会